平成２８年度日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立滑川中学校　教諭　竹内　利徳

１　派遣期日　平成２８年１０月３０日（日）

２　研修先　学校名　会津若松市立鶴城小学校

所在地　福島県会津若松市東栄町７番７号

http://www.aizuwakamatsu.gr.fks.ed.jp/?page_id=148

３　研修内容

研究主題　いきいきと輝く自分をつくる子どもの育成

～仲間と協働して高め合う『アクティブラーニング』～

（１）研究主題を設定するまでの反省

「子どもを中心に据える」ということ

手立てを重視し，その達成度合いを教師側から検証するこれまでの授業作りから，子ども（の学び）を授業研究の中心に据え，より，「主体的」・「探求的」・「協働的」・「互恵的」な学びを深める個や集団を導く研究への転換。

これまでの授業創りの重点	「教師の教えたい（教えるべき）こと」を「子どもの学びたいこと」へ	現在の授業作りの重点
「教科書」の指導内容が前提 （学習指導要領） ↓ 子どもの実態把握 （学習レディネス） ↓ 指導方法・形態の検討 「手立て」 ↓ 手立ての評価・改善		**子どもの「事実」**の把握 （学びの履歴，課題，発展の可能性） 「おもい」や「願い」 ↑ **重ねる** ↓ 変容をもたらすことが期待できる **教材の「価値」**を検討・創出 ↓ 子どもの「事実」に適った手立ての吟味 この「学び」で輝くだろう個の洗い出し ↓ **「アクティブラーニング」** **構想・支援** ↓ 「子どもの学びにかえる会」（協議会） **「意味・価値付け」＋「更なる発展の可能性」**

「子どもの学びにかえる」ということ

授業後の「振り返り」の場を「子どもの学びにかえる会」とし，子どものよさが表出した「理由」である教師側の営みを重ねて価値付け合うこと，つまり子どもの学びの事実を「生きた教材」として，仲間教師の「みとり」を手がかりに，教師自身が学び手として学び合う場とする。

目の前の子どもをさらによくみる　授業創りを子どもからはじめる

～「子どもからはじまり」～

↓

授業の中でも，子ども一人一人の学びのよさやがんばりを捉える

振り返りでは，互いのみとりを解釈し合い，学びを意味づける・価値付ける

見出したよさや課題を子どもや学級に丁寧に戻す・分かち合う

子どものよさや発展の可能性を未来につなげる

↓

～「子どもにかえる」～

（２）目指す子ども像とその捉え

日々の学びや生活の中で，子どもが「自分をつくる」ためには，質の高い「問い」と出会い，自ら学ぶ意欲や考えをもてるようにし,「できた」「わかった」という「達成感」・「満足感」を得られるようにすること，仲間と支え合いながら学び合い，互いの学びに貢献できた，認められたという「自己存在感」・「自己有用感」を味わうことができるようにすることが大切であるとの考えを根底としている。こうした「成功体験」を，次の学びや育ちへの活力とすることで，学ぶこと・学び合うことを通して，新たな自分と出会い，よりよい自分をつくり続けることができるとの視点から，①自分なりの考えをつくり，心を寄せて聴き合いながら，**ききあう**②「友だち」,「教材」,「生活・経験」とつながることで高め合い，**つながる**③自他の学びや育ちをみつめ直し，成長を自覚できる子ども，**みえる**の３つを目指す子ども像のキーワードとしている。

（３）実践

・「授業を開くＤＡＹ」の設定（授業研究の日常化）

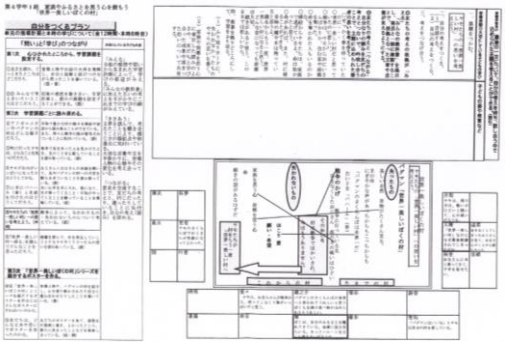
子どもたちの学びを互いに「みる」という時間を確保することで，互いの教室の姿から学び合ったり，子どもの学びについて語り合ったりする場を設けている。各授業者が日時を自分で決め，週案に位置づけるとともに，案内黒板で周知し互いの教室を行き来している。

・「全校授業」（全校での考え合い）

子どもの学びを全教師で見守る機会として，体育館に全校が一同に介し，考えあうという枠組み。目の前でモデルを示されながら繋がり合って学ぶ経験は，直ぐに一人一人に染みこみ全校に広がっていく。また，授業者の用いる言葉，視線の配り方や子どもへの対応の在り方などを子どもの姿を通して教師も学び合っている。

・自分をつくるプラン（教師の教えたいことを子どもの学びたいことへの転換）

学習指導案の替わりに自分をつくるプランをもとに授業を行っている。Ａ３版の約３分の１は教室での座席配置と前時までに子どものみとりを記入しておく。その中でその授業の鍵になるであろう子どもやこれからの成長を期待したい生徒を鍵児として設定している。参観者は，どの子どもがどんな時にどんな表情やつぶやきなどをしたかを記入していき,子どもの学びにかえる会では,それぞれのみとりを元に授業反省としている。



４　感想

課題研究主任という立場で,「アクティブラーニング」のキーワードを頼りに今回の会津若松市立鶴城小学校の公開研究会に参加させていただきました。何よりも驚いたことは，小学１年生にして４５分間，話し合いが途切れずに学習課題の解決に向けて授業が進んでいったことです。正にアクティブな姿がそこにあり，鶴城小学校の掲げるいきいきと輝く子どもの姿を見させていただきました。アクティブな学びにするために，先生方がよく子どもをみており，子どもが子ども・教材・自分の経験や未来とつながる手立てがよく講じられていました。授業規律が確立されており，様々な手立てで，周知・徹底されていました。元々農業従事者が多く，家庭的にも勤勉な保護者に育てられた純朴な子どもが多いという地域性も相まって全国学力調査でも高水準を保っているが，中学生になるにつれて，授業中のつぶやきが減り，学習成績もやや下降するという話もありました。子どもの様々な表現が今後のアクティブラーニングの手がかりになるのではと感じることができました。このような研修の機会をいただいたことに感謝するとともに，今後の教育活動に生かしていきたいと思います。